

『虞美人草』 20 世紀代表

Junko Higasa 2013.12.7

藤尾の母は特別なようであり、実は世間体を気にかけつつ得をしたい 20 世紀の平均的妻である。

まず自分から動かず相手を動かそうとする。自分から発言したことは自分の責任となるので、是非とも相手に発言させて自分の負担を減らさねばならぬ。そして何より恐れるのはマスコミである。世間の人々は他人の噂をするのが好きだ。そして良い人を認めて褒めるより、自分より劣った人を攻撃しやすい。それが「嫉妬」という人類の病であり、ルサンチマンという弱者の抵抗である。藤尾の母のように他人の財産に飛び込んで地位を得た者は、特に嫉妬を受けやすい。たとえば本妻が自分の子に跡を継がせなくても一時的噂に留まるが、妾が本妻の長男である欽吾を差し置いて自分の娘を跡継ぎにしたとなると、様々な憶測で苛められる。だから欽吾に「自分の希望で跡目を藤尾に譲りたい」と公表させねばならぬ。世間はうるさい。事実と反する噂を平然と立てる。そうなると妾が財産を横取りしたとか、藤尾が 24 歳まで嫁に行けないのは何か問題があるのではないかと、あらぬ噂まで立てられ、さらに一族郎党、根掘り葉掘り過去を探られ、架空の証拠をでっち上げられる。だから安泰に生きるには世間に嫌われてはならぬ。みんなと同じ、それが攻撃されないための防衛である。世間に合わせて生きるべきという信念ではなく、20 世紀のマスコミに対する保身なのである。